

千川中学校だより

3月号 平成30年3月15日(木)

卒業生と未来の卒業生へ

千川中学校長 紅床 直也

本日(3月14日)卒業式の予行を終え、万感の思いでこの文章を書いています。来週の火曜日には卒業式本番。その後、金曜日の修了式と4月6日の始業式は2つの学年だけで行います。毎年この時期は出会いと別れが交差してドラマが生まれます。これは作りものの作品ではなく、卒業式を例に取れば、86名の3年生が千中生として学んだ日々の一瞬一瞬が凝縮された真実の時間となります。その中には誤魔化しが入る余地がありません。どんなに強がっていたとしても心の中にしっかりと根付いた他者への感謝の気持ちが、自然と心を揺さぶるはずです。私自身は3年生へのはなむけの言葉を来週に迫った卒業式の式辞でしっかりと伝えたいと思っています。

さて、現在の1、2年生は、未来の卒業生として、3年生が残してくれた伝統を受け継ぎ、本校を更に発展させていく重責を担うこととなります。心と身体の大きな発達が見られる中学生にとっては、この環境・立場の変化は、成長への大きな試練となります。

現2年生は、あと2週間後には最上級生となります。運動会や文化祭で全校を引っ張るだけではなく、日々の学習を積み上げた先には進路選択が待っています。これからの1年間をどう過ごすかは本当に大切です。人間は弱いもので、なかなか自分に克つことはできません。どうしても楽をしたいという気持ちに流れがちです。そこをどのように我慢して、前向きなモチベーションに変えていくか、人間力の勝負となります。

例えば、運動部の活動であれば、仲間と励まし合いながら、辛い練習にも耐えることができます。試合の勝敗や個人記録という形で結果が明白になりますから、次の試合までには、チームメートと競い合って実力を上げて、いい結果を出そうという意欲が出ます。

しかし、進路選択は基本的に千川中3年生、一人一人の純粋な努力が問われます。ある意味では孤独な営みとなります。すべての教科にわたって学習することに喜びを感じている生徒なら苦にならないでしょうが、普通は不得意な教科の一つや二つはあります。それを、いつまでにどう克服し目標をクリアするか、自己マネジメント能力が問われます。

現1年生は、あと3週間後に新入生を迎えます。「先輩」と呼ばれることによる誇りと責任感を大切にしてほしいと思います。後輩から慕われ目標とされる先輩になるために、さまざまな場で努力してほしいと思います。学校は教科の授業だけではなく、行事や委員会活動・部活動など、皆さんが将来、自立(自律)して生きることができるようになるための試練の場を多く用意しています。その中のどれか一つでもいいから、自分が思いっきり活躍できる場を開拓してほしいと思います。現時点で、先輩となる自信がないという人もいるかもしれませんが、しかし、地位が人を作り、環境が人を育てます。その立場になれば自然と見えてくることもあるし、努力を続けざるを得なくなるものです。最初はごちないかもしれませんが、例えば部活動や委員会活動で、後輩に教えてあげることによって自分の技量は進歩します。

創立70周年記念式典を挙行了した年度に在籍して共に学んだ全校生徒の連帯感を卒業式で具現化してくれることを望みます。卒業生はしっかりと校長の目を見て証書を受け取ってください。

1、2年生はその態度から学び、式場一杯に響きわたる歌声で旅立ちを祝ってください。

最後に、この1年間、千川中学校を支えてくださった保護者・地域の皆さまに、心から御礼を申し上げます。是非、来年度の本校にも変わらないご協力をお願いいたします。

